資料２

第３次名張市農業マスタープラン 地区懇談会について

１．開催趣旨

現在、名張市においては、農業・農村における高齢化、担い手不足、農地の減少などが進む中、農業・農村の持続的な発展に向けた総合的かつ基本的な計画として、第 3 次名張市農業マスタープランの策定を進めています。

本プランは、名張市農業マスタープラン(平成 10 年度～平成 17 年度)、第 2 次マスタープラン(平成 18 年度～平成 27 年度)に続くもので、名張市の農業・農村施策の基本方向と取り組むべき施策を取りまとめるものです。

本プラン策定の参考とするため、農家及び関係の皆様を対象に地区懇談会を下記のとおり実施しました。

２．実施概要

日　付	地　区	時　間	市民センター	参加者数
6 月 17 日(土)	国津	午後 7 時 30 分～	国津の杜 くにつふるさと館	１４人
6 月 18 日(日)	名張	午後 7 時 30 分～	名張市民センター	３人
6 月 19 日(月)	錦生	午後 7 時 30 分～	錦生市民センター	２８人
6 月 20 日(火)	箕曲	午後 7 時 30 分～	箕曲市民センター	１０人
6 月 21 日(水)	赤目	午後 7 時 30 分～	赤目市民センター	１４人
6 月 23 日(金)	薦原	午後 7 時 30 分～	薦原市民センター	１５人
6 月 26 日(月)	蔵持	午後 7 時 30 分～	蔵持市民センター	２０人
6 月 27 日(火)	比奈知	午後 7 時 30 分～	比奈知市民センター	１６人
6 月 28 日(水)	美旗	午後 7 時 30 分～	美旗市民センター	３４人
			合　　計	１５４人

３．参加者からの主な意見等

別紙のとおり

第3次名張市農業マスタープラン地区懇談会　実施結果報告

開催日時：平成29年6月17日（土）19：30～

地区名：国津地区

場所：国津ふるさと館

参加人数：14名

参加者からの主な意見等
第2次マスタープランは、直売所づくりと美味しい米づくりがテーマだった。 10年で作り直すのではなくて、計画期間についてはフレキシブルに考えても良いと思う。 今回のプランも必要な農業予算の確保に役立てて欲しい。 地域づくり組織も地域ビジョンを策定しているので、農業マスタープランと連動させてはどうか。
耕作放棄地の解消を図るモデルを市として作ってほしい。
あと5年先には農家がさらに半分になってくるだろう。
縛られてしまうような計画は止めたらどうか。
農地の草刈りすらしない人が多い。
8～9軒分の水田を預かっている。高く売れる米を作れば世話もできるが栽培は厳しい。
自分が高齢になったら農業は辞めるつもり。
国津ではワインづくりが始まると聞く。米以外の農産物、例えばホップを栽培して国津ブランドのビールを作るといったことも考えてはどうか。
耕地整理したことによる様々な縛りを取り払ったらどうか。国津の地域づくり委員会も提案すべきだと思う。国津は名張で一番過疎化した地域だ。
このままでは、農業だけでなく、国津の集落自体が無くなってしまうのではないかと懸念している。
農業をやってみたいという住宅地の人が国津に農業をやりに来るのは難しい。機械が無いとできない。
一人で売れないなら、十人、百人と集団で作ったら売れるという農作物を市で探して欲しい。
例えば、荒地を耕して芋を植えても売れるか分からない。採算が取れるかわからない。成功事例を教えて欲しい。
農作物が売れる場所を市で探して欲しい。
売る場をつくることも大事だが、売る物がない（足りない）状況だ。つつじが丘等での青空市での販売は好評で、地場産のものは売れると思う。消費者は安全・安心な地元の農産物を求めている。
「生きがいづくり」や「健康づくり」のための農業という要素は、今後拡大すると思う。
獣害については、やはり防ぐ対策が必要だ。
畑地転換が必要。
農業で食べていける自立した後継者を育てるためには、生きがいや健康目的だけの農業ではダメだと思う。売り方を考えるのが大変だ。
マコモを始めて、売れるまでに7年かかった。どうやって売るかが大きな問題。若者に農業を引き継いでいくためには、農業で生計を立てられることが必要。
国津の弱みは寒いところ。
とれたて名張交流館は、手数料を払うと採算が取れなくなる。なんとかならないのか。
つつじが丘に住んでいる人で玉ねぎを沢山作って売っている人がいる。
農業をやっている間は元気。健康づくりの一環と考えればよい。社会的なメリットは大きい。
生活支援も含めて、地域おこし協力隊のような他の地域からこの地を支えて施設園芸等の農業をやってくれるような人を迎えたらどうか。

農地の周りの手入れされてない森林のスギやヒノキの伐採が重要。日当たり改善や獣害対策になる。 そういうための予算を生み出すようなプランにしてほしい。
土手の草刈りが水稲作で最大の労力を要する。
木が売れた時は、人も山に入った。単価が以前に比べて話にならないくらい低額だ。
売り先確保が重要だ。
自分は、あと10年ぐらいは農業を続けられると思う。辞めたい人は辞めてもらっても良い。その方が生き残れる。
農業のことを考える時、他の好条件の地域と比べてしまう。付加価値の高いものを売れる売り先を行政に紹介してもらいたい。
「伊賀米コシヒカリ」はJAの独占だが、「伊賀米」の使用は抑えきれていない。
JAの直売所には野菜を出荷したことがあるが僅かしか売れなかった。
イオンの直売コーナー（隠物産市場）は入会金＋月会費がいる。敷居が高い。
とれたて名張交流館は、出荷者を増やすことが先決だ。経営も民間に任せる時期ではないか。 その逆で、購入者が増えれば出荷者が増えるとも言える。
国津でも茶を栽培していたところは、ぶどう栽培の適地かもしれない。
集落、水田周辺の杉などの人工林について、環境改善対策として伐採してほしい。 土地所有者がはっきりしない場所もある。
銘柄米の競争の時代だ。それぞれの品種に適した肥料があるはずで、自分でそれを選択することが必要になる。

第3次名張市農業マスタープラン地区懇談会　実施結果報告

開催日時：平成29年6月18日（日）19：30～

地区名：名張地区

場所：名張市民センター

参加人数：3名

参加者からの主な意見等
専業農家は基本的にいない。（南町）
私は水稲と野菜を栽培している。野菜はやなせ宿の直売所に出している。
水田経営を考える時、簗瀬水路の維持をどうするかという問題に突き当たる。 本来は、農業用水路なのに生活排水路と捉えている住民が多い。簗瀬水路の認識を高めてほしい。 朝日町で水田をやっていくためには、簗瀬水路が必要であるため残して欲しい。
簗瀬水路は防火用の水源ともなっているが、漏水が多い。
都市近郊地での耕作放棄地は見た目も悪い。
地域の水田は、ほとんど南町の組織に頼んでいる。
この地域は、電車などの交通面や生活面で利便性が高いので、新たに担い手になってくれる人もいるのではないか。
「簡単に宅地になる」ということが、農業振興や農地の保全という観点ではネックになっている。
集客の拠点（仕掛け）があれば、それに向けて出荷（出店）することができる。
伊賀南部アグリ（株）との連携で、農業振興策を考えたらどうか。
JAは販路をもっているから強いはずだ。
農地転用された土地で草だらけになっているところがある。行政がもっと強く言えないのか。
例えば、草刈条例などで耕作放棄地化をある程度防止できないか。
担い手の確保について、小規模で始めるにしても農業に参入するからにはまとまった資本投資が必要になる。何らかの財政的な手助けが要る。
名張で農業機械の共同利用が進まないのは、水稲では品種構成がコシヒカリ一辺倒のためではないか。区画が狭いこともネックだ。

第3次名張市農業マスタープラン地区懇談会　実施結果報告

開催日時：平成29年6月19日（月）19：30～

地区名：錦生地区

場所：錦生市民センター

参加人数：28名

参加者からの主な意見等
第2次名張市農業マスタープランの検証が必要。 認定農業者は何人確保できて、どれだけ農地の集約ができたのか示してほしい。
名張市は、国の制度等を活用した農業機械のリース支援の取り組みを行うのか教えてほしい。
農業（経営改善）支援センターでどのような支援を行ってきたのか教えて欲しい。
今日の資料を見ると、国、県の受け売りのように思える。 名張市独自の予算付けされた事業を入れて欲しい。
国・県の施策を解り易く紹介して欲しい。
資料2に「青空市グループの支援」とあるが、具体的にはどのような支援があったのか。
具体的な支援が欲しい。
鳥獣被害が益々酷くなっている。獣害対策をもっと強化して欲しい。
アライグマ、ハクビシンの被害が多くなっている。
獣害を受けにくい作物を教えて欲しい。
高齢化してくると運搬や収穫作業が大変になる。サポートする人が欲しい。
自分も数人の農地を預かっているが、出し手農家が高齢化してくると、預かることが負担になっても、 こちらから「返す」とは心情的に言いづらい。
農地の出し手と受け手のマッチングをしてもらうと嬉しい。相談役がいてくれると助かる。
「農業振興地域から外す」ということも方策の一つでは。
JAアグリであれば信用できそうなので、農地を貸しても良いと思える。期待したい。
名張市の農業の衰退を防ぐための思い切った新しい施策を打ち出して欲しい。 例）市民と生産者の連携や、農業に関する様々なことを検討する研究会を設置できないか。
獣害対策も思い切った対策を取れないか。昔はネズミ駆除を目的にした報奨金が出ていて、捕まえる ことに楽しみがあった。アライグマ捕獲にも報奨金を出すと良い。
アニマルトラップ（アライグマ・ヌートリア捕獲用）の貸出しや報奨金について、広報等でも呼びかけて、 大々的に取り組んで欲しい。

第3次名張市農業マスタープラン地区懇談会　実施結果報告

開催日時：平成29年6月20日（火）19：30～

地区名：箕曲地区

場所：箕曲市民センター

参加人数：10名

参加者からの主な意見等
色彩選別機にかけないと米も有利に売れない。機械なしでは稲作もやっていけない。 農業（倉庫・機械類をひっくるめて）をやるには、約2,000万円程度の投資が必要だ。
大規模化といっても、どのくらいの規模で採算が取れるのか、具体的なモデルを示してくれないから分からない。
70a（名張の平均経営規模）くらいで農業が続けられるかが課題だ。 米づくりだけではダメだ。黒字化しないと若い人も続かない。 草刈りを人に頼んでやってもらっているが、その費用もかさむ。
「健康のための農業」というアピールはあり得る。
義務感で農業を続けているようなものだ。それが支えになっている。
農家レストランに農家は行かない。街の住人がお客さんになる。
名張市の現状では、農家が単独で、生産・加工・販売に取り組む6次産業化には無理がある。農業者ではなく経営者という立場でないとできない。
名張市でも中山間地などで高齢化が顕著。
高齢者の介護を妻が担っている場合が多く、農業は夫が一人でやることになる。
当地域では、農地が農地以外の用途になる可能性が高い。それが農業振興の仇になっている。
市民向けの農園を設置した人がいるが、数年でやめた。市民農園は飽きられる。長続きしない。
6次産業化ではなく、（価格保証して買い上げるなどにより）作るだけで適正な利潤があがるようにして、作ることに専念させる方がいい。
6次産業化しても、採算が取れるようにするのは簡単ではない。
この辺りは勤めながら農業ができる地域。近鉄沿線は恵まれている。
今後は発想の転換が必要。地域づくり組織で桃づくりを始めたが、桃づくりは難しい。核になる人もいない。
特定の者の負担の上に獣害対策が成り立っている。普段から、各地区から何人かは狩猟者を養成して欲しいとお願いしているところだ。 狩猟者の中でも、猟銃の免許を取って、猟犬を飼って、軽トラを持って猟をしている人が高齢化している。
ビワを作っているが、鹿に食べられた。
カラスの被害が多い。
ゴマは、需要が大きく、獣害にあうことも少ないと聞いている。
伊賀南部アグリ（株）には期待している。しかし、現在の作業単価で一通りの作業を委託すると赤字になる。
産業部の人は海外に出て名張のことを考えてほしい。海外に出ると日本のことがわかる。 売ることを学ぼうとすれば海外に出なければならない。市職員が営業マンになって欲しい。米づくりだけでは農業・農村の維持は無理だ。

第3次名張市農業マスタープラン地区懇談会　実施結果報告

開催日時：平成29年6月21日（水）19：30～

地区名：赤目地区

場所：赤目市民センター

参加人数：14名

参加者からの主な意見等
他の地区から赤目地区に入ってきて就農してくれている農業者の方とコミュニケーションが取りづらい。そのような農業者を市はフォローしているのか。
作った野菜もしっかりした販路が無いと売れない。パソコンも苦手なので、インターネット販売のノウハウを教えてくれる研修会等を開催してもらっても良い。
作った野菜を青空市などのマーケットで販売していくのか、自分でインターネット販売を行うなどの形態を作っていくのか、市の考えている方向性を教えて欲しい。
作った米は売れないし、最近では農業法人に農地を委託して農家を辞める人が増えてきている。市としては、農地を農業法人に任せていく方針なのか、個々の農家にがんばってもらう方針なのか、方向性を教えて欲しい。
市がもっと伊賀南部アグリ（株）や農業生産法人を支援して欲しい。
市や他人に頼るのではなく、個人が伊賀南部アグリ等に、積極的に参加、出資しなければならない。
他の地区から赤目地区で就農してくれている方も、田畑や水路の管理を年間を通じてきちんとして欲しい。
他県から移住を考えている人が、少しの畑や田をしたいと考えたときに、簡単にできるような制度は何かないのか。
他府県の子供がいる家族が、2泊3日等で赤目に農業・農村体験や観光目的のツアーでやって来る。こういった取組をきっかけに移住・定住に繋がると良い。
伊賀南部アグリのような組織でも良いが、市とJAが組織をつくって、作物指導を行いながらやっていくことはできないか。
農業生産に関する組織体を作るような指導をする計画はあるのか。
休耕地を区画整理して、道具等も全て揃えて、10万円程度の料金で貸し農園をやっている市がある。
星川では4分の3くらいの人が、農地を他人に頼んで耕作してもらっているが、1人の人に多くの田・畑が集中してしまうような体制で良いのか。
名張で果実を育てるのはどうか。それを大阪など他府県からの移住者に担ってもらうと良い。そのために名張・赤目について、もっと他府県で効果的にPRして欲しい。
区長から農地のマッチングを頼まれる。受託者が草を刈ってくれないことがある。ソーラーパネルは管理者が分からない。草刈りやソーラーパネルの場所など、その土地の管理は誰なのかはっきりさせる必要がある。
伊賀米が「特A」を取れなかったが、このまま受け身でいるのか。
赤目ではどんな作物をつくるのが良いか考えないといけない。

第3次名張市農業マスタープラン地区懇談会　実施結果報告

開催日時：平成29年6月23日（金）19：30～

地区名：薦原地区

場所：薦原市民センター

参加人数：15名

参加者からの主な意見等
米農家と野菜農家で状況は違うと思うが、薦原で多い米農家では、我々の次の担い手はいない。 息子にも、農業に魅力が無いから後を継げとは言えない。
現在、主に従事している人が出来なくなったら続けられないと思う。農業をやっていて先が見えない。 生きがいくらいに思っていないとしかたがない。
伊賀市では営農組合が多いが、農地の規模が大きい。名張市では農地の規模が小さく採算が取れないので、新たに営農組合を組織することは難しい。
営農組合を組織して集約化するにしても、形が良く、場所もまとまっているような効率の良い田ばかりを選ばないと難しい。
奈良では、お金を払って他人に稲作をしてもらっているところもある。
伊賀南部アグリ（株）は、平成29年4月１日にJA伊賀南部の100％出資子会社として設立した。 1年目は、農作業受託をやっているが、要望もあり、将来的には田の受託を受けていきたいという思いはある。 しかし、一定の収益があがらないとやっていけないので、どんな田でも全て受けるという訳にはいかないと思う。受ける田の選別や、米だけではなく、野菜も含めて高収益化をしていかないといけない。
中山間地では、農業だけでなく、過疎化で集落そのものが無くなってしまう恐れもある。 農地を担い手に集約化していくためには、なるべく飛び地を避けて、ほ場の部分的な再整備をしないと受けてもらえないのではないか。
農地の集約化は、条件の悪い場所がネックになってくる。個人とか村だけでは何ともならない。
農業で成功している人は、契約栽培等により先に売り先を決めてから生産している。 生産してから売り先を考えているようではダメ。
担い手も受ける農地を選別する必要がある。
とれたて名張交流館では、一部に売上を伸ばしている農業者がいるが、そのような売り場をもっと増やしていかなければならない。
名張では、米の生産量より消費量が多いと聞いている。売り場をもっとつくれば売れると思う。
とれたて名張交流館が赤字との記事をどこかで見た。売上が1億円以上あるのに、なぜ赤字になるのか。経営を民間に任せたら良いのではないか。
生産者がつくった農産物の売り先を考えるようなプランにしないといけない。
屋敷畑付き古民家の需要や古民家カフェが増えている話があるが、そういった新たな動きを地元の人も意識していかないといけない。
さつき台の集会所で朝市をやっている。そういう取り組みを地域として支援していかなければならない。
新たなスーパーができたら、必ず地元農産物の売り場を確保するような取り組みを行政でしてほしい。また、農家にも売れる場所等の情報提供をしてほしい。

第3次名張市農業マスタープラン地区懇談会　実施結果報告

開催日時：平成29年6月26日（月）19：30～

地区名：蔵持地区

場所：蔵持市民センター

参加人数：20名

参加者からの主な意見等
私の家では後継者はいない。法人化した組織を作り、農地の集約を図れば良いと思う。
伊賀南部アグリ(株)について、農地を全て預けたいという希望は多いが、水路の世話と除草はやって欲しいという話はしている。
他の地域から来る就農者には移住対策等で手厚い支援があるが、地元の人が行う取り組みにも財政的支援が欲しい。地区で耕作放棄地対策の取り組みを始めたが、それに対する支援をマスタープランに位置づけてほしい。
市独自で予算を伴う支援制度を創設して欲しい。（例えば、果樹の苗代の一部や農業用施設設置の何割かを補助するなど。）福祉や地域づくりの次は農業に力を入れるべきだと思う。
耕作放棄地への対応として、少なくとも草刈りだけでも市でして欲しい。耕作放棄地は、周りへの影響が大きいと思う。次のステップに移るための第一歩目は行政で対応して欲しい。
梅が丘の住民が松原に農作物を作りにきてくれている。行政が仲介してくれれば、もっと作り手はいるのではないか。
耕作放棄地を解消して農作物を作ってくれた人には何らかの奨励金を出す、といった施策を考えて欲しい。
市外の若い人を引き付けるようなPRやフォーラムの取り組み等を新しいマスタープランに盛り込むのか。
当地域は都市化の進展が急だ。今後も都市化は免れないと思っている。農業は大切だが、地域の位置づけも重要。新しい形での土地利用、農業振興も考えなければならない。
農業は、採算が合わない。従来は作っていただけ。生産から消費者の口に届くまで取り組まないと利益が上がらない。しかし、個人では無理だと思う。法人でやっていけば良いと思う。加工が重要。
若い農業者を育てるための補助金（長いスパンでの優遇策等）を名張市独自で考えてほしい。
私は勤めているが、サラリーで農業の赤字を補てんして農業を続けている。定年退職後、再就職できなければ、機械の更新もできなくなる。無職になったら農地を委託したい。
アパート経営や駐車場経営等、土地の高度利用で（地域としての）収入を増やし、それで残したい農地・緑地を守るという策は考えられないか。
蔵持の農地は激しく減少している。
法人をつくって受け皿にし、農地の出し手に補助金を出したら、農地は集まるのではないか。
山沿いの地域はうまい米ができないと言うが、高温障害が顕著で山手の方がコシヒカリは美味しいと思う。
地域によって状況は大きく異なる。地域に応じた対応をしてほしい。都市化も選択肢の一つ。名張独自の財政支援策を考えて欲しい。

第3次名張市農業マスタープラン地区懇談会　実施結果報告

開催日時：平成29年6月27日（火）19：30～

地区名：比奈知地区

場所：比奈知市民センター

参加人数：16名

参加者からの主な意見等
農業をしたいという人は多い。だが、やりたいという気持ちを継続させるのは大変だ。 現状と狙いの間のギャップは大きい。常時ついてコーディネートする人が必要だ。
この地域に定住したいという家族が5組程度いる。
「うちの土地より作りやすい」という美杉（太郎）の人もいる。耕作条件が不利な近郊地域との連携も有益かもしれない。
加工用作物の生産に関する滝之原の農産物加工所と地元農家との話し合いについてもコーディネートしている。
「黒字」としている農家がほとんどいないが、10a当りの水稲生産に関する作業受託料金単価を全部足すと17,500円になる。これでは儲からない。
獣害対策と耕作放棄地の草刈りを徹底して、周辺の者に迷惑を掛けないようにして欲しい。
肚を括って荒れた土地をきれいにして欲しい。
転作についての補助金が無くなるが、市としての対応策は考えているのか。
地域ごとにどんな作物を作っていったら良いか考えて欲しい。
獣害がとにかく酷い。当面は獣害対策を進めてほしい。
ジビエ料理のノウハウが三重県は進んでいる。美杉ではイノシシを高額で買い取っているようだ。
奈垣で柵の設置をしていたと思うが、今、柵設置についての状況はどうなっているのか。 今は、大規模柵の補助をもらうための条件が厳しくなっていて申請できない。もう少し条件を緩めて欲しい。
有害鳥獣の捕獲にもっと補助金を出して欲しい。
獣害柵は、農地全体を囲ってしまうのが良い。多面的の補助金でも材料は揃えられるが、日当が出ない。
獣害対策についての名張の取り組みは早かった。でも、みんな手を挙げなかった。各地のリーダーをいかに作るかが課題だ。
各種の申請書類が難しくて書きづらい。
（農業者や地域の）横の連絡ができるプラットフォームがあるといい。 市役所の場合は、まともな話（原則を逸脱しない話）しかできない。便法を話せる場があると良い。
獣害対策の予算はどれぐらいあるのか。
サル追払い用の花火をもっと安く買わせて欲しい。
サル対策に人を付けているが、人件費が無駄ではないか。
下比奈知の特定の地域については、農業振興地域を外してほしい。その方が有効な土地活用が図れる。
ワイン用のぶどう栽培は手間もあまりかからず（土地の有効利用、地域振興に）有効だと思う。
優良農地とはどのような農地で、比奈知にはどれくらいあるか知りたい。 2次プランの地域別計画で、「推進します」「支援します」と書いてあるが、具体的に何かあったのか。
補助金の話が出ているが、全て税金と考えると、衰退する農業に出していくことに意味があるのか。 今後の農業に魅力が無い。
地元で「ぶどうを作ろう」といった話が出ているが、苗代がいくらで、ぶどうの売上単価がどれだけで、といった試算がないと乗り出せない。

環境対策という方面からも、（農業関係の）予算確保をしたらどうか。
林業（森林）のことも含めて考える必要がある。農地の周辺の山林が獣の棲家になっている。
運動として、企業とタイアップした森づくりもあり得る。
これからは農林業を通じた産業革命が起きていくと考えている。
中山間地で汗をかいて農業がしたいという人はいる。必ずしも儲からなくてもいいという価値観もある。
JAが合併したら市のマスタープランも変えていかないといけないのではないか。
農業委員会の作業料金単価が名張市と伊賀市では違いがある。すり合わせが必要だ。
こういった懇談会の機会を増やしてほしい。多くの人の声を聞いてほしい。

第3次名張市農業マスタープラン地区懇談会　実施結果報告

開催日時：平成29年6月28日（水）19：30～

地区名：美旗地区

場所：美旗市民センター

参加人数：34名

参加者からの主な意見等
名張市の農業者は零細農家が多く、1haの水田でも売り上げは百万円程度。産業とは成り得ない。
何か手を打たなければ農業そのものが消滅する。根本的なところから考えなければならない。
マスタープランを作るのであれば、実行プランも必要だ。
名張の農業のために何ができるか、みんなが考えないといけない。
小規模経営であっても農業で生きる道がある。
2次の計画の中でも成果の出たことはあったはず。前向きな意見も入れていくべき。
農地中間管理機構が関わった農地受委託の比率は低いのではないか。
農業経営について、新たな切り口を出してもらうと嬉しい。
個々の農家がまとまる（同じ方向性をもつような）機会がない。
農地中間管理機構は、担い手を決めてくれたら委託希望の農地を受けるというスタンスだ。
なぜ伊賀市に集落営農組織が多いのかと言うと、伊賀の場合は、農協が集落営農推進に力を入れている。しかし、集落営農でも設立後、何年か経って機械の更新やオペレーターの高齢化で苦労しているところもある。
新田地区で、基盤整備の検討をしている。
新田では水利の難しい調整が必要。基盤整備できていないのがネックだ。高齢化も心配だ。
名張市での組織営農の進捗状況を教えて欲しい。
認定農業者はあまりメリットが無い。
マスタープランには数値目標も入れて実行性を担保してほしい。
減価償却費（農業機械代）が負担になっている。
企業体で規模拡大していくモデルも示してほしい。
機械のローンの補償や罠の狩猟免許取得について、市で何割かの補てんをしてもらってはどうか。
上小波田の場合は、営農組合がある。みんなで育てていくよう頑張らないといけない。
名張市内の一部地区の農地を、県内で大規模受託をしている組織が担うような話があったと聞いたことがある。しかし、名張の緑豊かな土地は地域で守っていきたい。
何でも国や市に守ってくれという時代ではない。
（農業法人）利用可能な耕作放棄地を集めたいと考えている。地域貢献もしたい。そのため、耕作放棄地の情報が欲しい。
農業法人の中には、地域に受け入れられるように頑張ってくれている組織がある。
道路に泥の塊りが落ちていることがある。きちんと片付けた方がいい。
一概に支援と言っても、それぞれの農家が違う状況にあるから難しい面がある。 名張市の農業のブランディングに協力したい。